

1 単元名 明治の国づくりを進めた人々

2 単元について

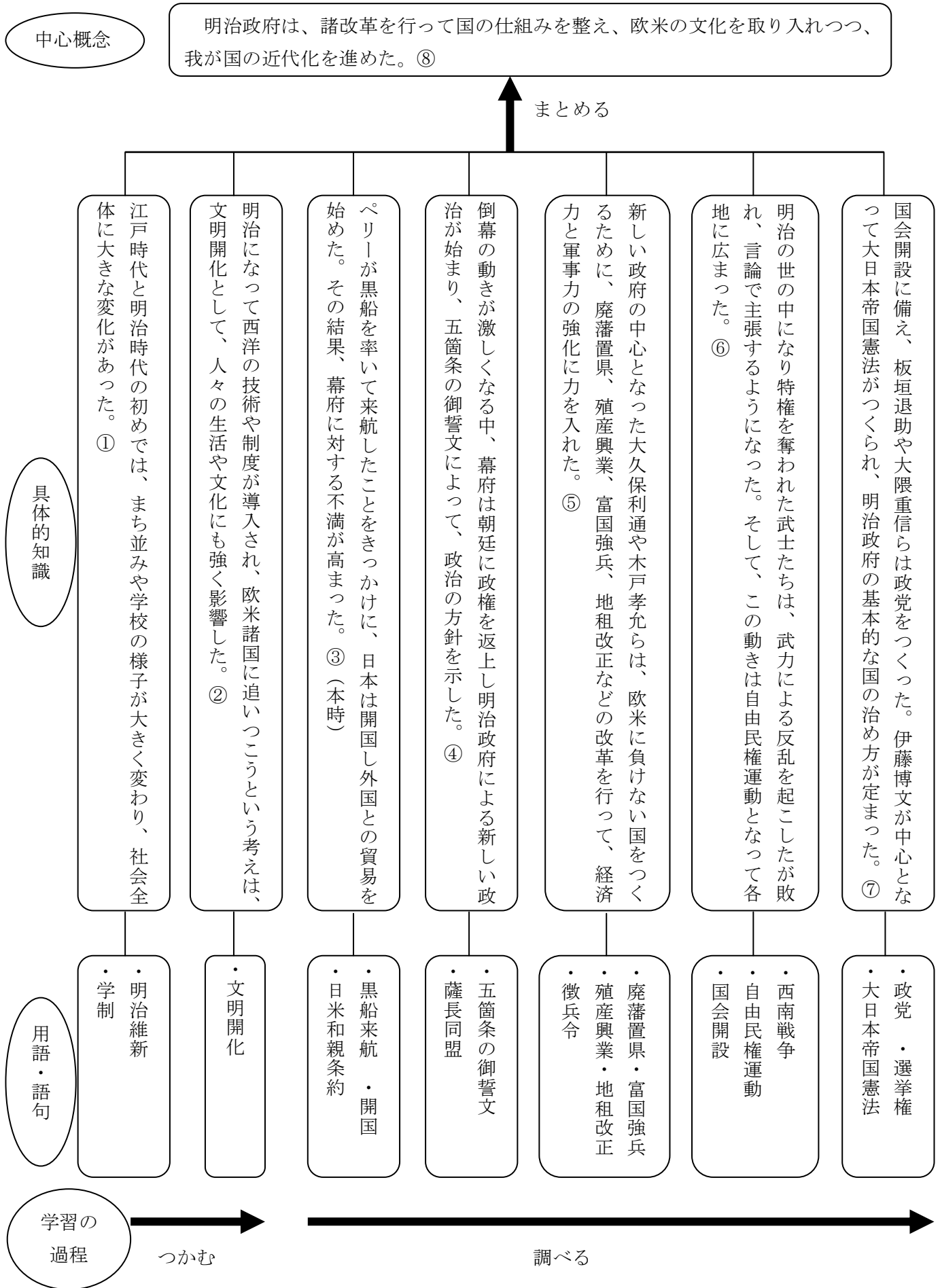
本単元は、学習指導要領第6学年の内容(1)のキ「黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。」を受けて学習を行う。ここでは、幕末から明治の初めにかけてのうち、黒船の来航、明治維新、文明開化などの歴史的事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、我が国は廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かるようにすることをねらいとしている。

前単元までに、徳川家康により江戸幕府の政治が始まり、徳川家光の時代に大名を抑える仕組みが整えられ、鎖国によりキリスト教の禁止と海外との貿易の統制が行われたことで、江戸幕府による政治が安定したことを学習してきた。また、政治が安定し、社会が安定するにつれて、歌舞伎や浮世絵などの文化が町人の間に広がったことや、国学や蘭学などの新しい学問が起こったことも学習してきた。本単元では、約260年間も続いた江戸幕府による安定した政治が終わり、新政府が諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めていったことを学ぶ。江戸幕府による政治が終焉を迎え、わずか20～30年という短い期間で西洋化・近代化が進んでいったことを理解させるためには、ペリー来航による影響がいかに大きかったか考える必要がある。また、時代の変わり目にはその時代に生きる人々の思いが反映されていることから、調べ学習を通して、明治維新を進めた人々の思いや願いを感じてもらいたい。そしてその思いや願いが新政府の諸改革に表れていることを読み取らせたい。

本学級の児童は、授業に真面目に取り組むことができる。しかし、自分の考えに自信がなく失敗を恐れている児童が多いために全体的に大人しく、一斉指導の場では発表する子が数名しかいない。また、問題解決的な学習の流れに沿って学習は進められるが、主体的・意欲的に進められる児童は少ない。資料の読み取りに関しては、その資料から気づいたこと・疑問に思うこと・予想されることなどを考えることができる。しかし、前の時代と比較したり、その時間までに学習した歴史事象と関連付けたりして資料を読み取ることができる児童は少ない。

そこで本単元では、単元の導入で、まず約260年間続いた江戸幕府による安定した政治がわずか20～30年の間に大きく変わったことを捉えさせるために、江戸時代と明治時代の日本橋の様子や小学校の様子を比較する。これにより、このわずかな期間に何があったのかという疑問を抱かせ、児童が一人一人主体的・意欲的に問題解決的な学習に取り組んでいけるようにしたい。ペリー来航を扱う学習の際にも、授業の導入を工夫する。ペリーが来航したことがきっかけとなり、最終的には江戸幕府に対する不満が高まるという結果を先に伝える。これにより、ペリーの来航がなぜ江戸幕府に対する不満の高まりに関係しているのかという疑問をもたせることができると考える。児童の予想に反する結果を先に伝えることで、児童の予想と社会的事象の間にギャップを生じさせ、問題意識を高めていきたい。また、ペリー来航と江戸幕府に対する不満の高まりがどう結びつくのか調べ学習を進めていく中で、児童は社会的事象をつなげる作業を行うことになる。ペリー来航、開国、日米和親条約、一揆・打ちこわしと、これらすべての事象が繋がった結果が江戸幕府の終焉であることを捉えさせ、歴史はつながっているという意識を高めたい。

### 3 知識の構造図



#### 4 単元の目標

- 黒船の来航、明治維新、文明開化と時代が変化し、明治政府が廃藩置県や四民平等、大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行ったことを通して、我が国が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことがわかるとともに、それらにかかわる人物の願いや働き、文化遺産の意味を考えようとする。
- 江戸と明治の日本橋や学校の様子の変化などから学習問題を見だし、資料を活用して調べたことをまとめるとともに、明治という新しい時代になって人々の生活が変化したことや、近代化を進めるためにさまざまな諸改革を行った代表的な人物の働きや文化遺産の意味について思考・判断したことを適切に表現する。

#### 5 単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
社会的事象への 関心・意欲・態度	黒船の来航から明治維新、文明開化などの時代の変化とともに、廃藩置県、四民平等、大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行った明治政府に関心をもち、我が国が欧米の文化を取り入れながら近代化を進めていったことを進んで調べようとしている。
社会的な思考・判断・表現	黒船の来航、明治維新、文明開化と時代が変化し、廃藩置県、富国強兵、地租改正や四民平等、大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行ったことについて調べたことを比較したり、関連させたり総合させたりして、明治政府が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことやそれらにかかわる人物の願いや働き、文化遺産の意味を考え、人物相関図などに表現している。
観察・資料活用の技能	明治という新しい時代になって人々の生活が変化したことや我が国を近代化するためにさまざまな諸改革を行った代表的な人物の働きや文化遺産について、必要な情報を集め、読み取っている。
社会的事象についての 知識・理解	黒船の来航、明治維新、文明開化と時代が変化し、明治政府が廃藩置県や四民平等、大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行ったことを通して、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことがわかっている。

#### 6 単元の指導計画

過程	時間	主な学習活動と内容
つ か む	1	○江戸から明治に変わる20～30年間で大きな変化があったことをつかむ。 ・江戸時代と明治時代の日本橋近くの様子を資料から読み取る。 ・絵図や写真から寺子屋と小学校の様子を読み取る。
	1	○わかったことや疑問に思ったことをもとに学習問題をつくる。 ・都市部を中心に西洋化が急激に進んだ。(文明開化) ・物だけではなく、人の考え方や生き方も変わっていった。 ・だれがこのような変化をもたらしたのだろうか？ ・明治維新は、どのようなことがあったのだろうか？

		<p>○明治維新では、どのような人々が、どのような思いで、国のしくみや社会を変えていったのだろうか。</p> <p>○学習問題に対する予想を出し合い、予想をもとに学習計画をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋化が進んだということは、外国と交流をもちはじめたきっかけがある。</li> <li>・幕府を倒したのは、地方の武士か身分制度で苦しめられた人々だろう。</li> <li>・幕府を倒した人たちが、明治維新を進めた。</li> </ul>
	1 (本時)	<p>○ペリー来航により、幕府に対する不満が高まった理由を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日米和親条約により、約200年続いた鎖国が終わり、日本は開国した。</li> <li>・ペリー来航以降、百姓一揆や打ちこわしの発生件数が増えている。</li> <li>・貿易により物価が上昇したことが、一揆や打ちこわしにつながっている。</li> <li>・大名の多くは開国に反対の立場だったが、結果幕府は開国した。</li> </ul>
	1	<p>○明治維新を進めた人々(大久保利通、西郷隆盛、木戸孝允、坂本龍馬)はどのような思いをもっていたのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薩摩と長州が手を組み、倒幕運動を進めた。</li> <li>・坂本龍馬の薩長同盟や船中八策が新しい政府をつくる運動に影響を与えた。</li> <li>・大政奉還により260年余り続いた江戸幕府の時代が終わり、新政府が誕生した。</li> <li>・明治天皇による五箇条の御誓文で政治の方針を示した。</li> </ul>
調 べ る	1	<p>○新政府がどのような国づくりを目指したのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・藩を廃止して、新たに県を置いた。(廃藩置県)</li> <li>・税の仕組みを改めた。(地租改正)</li> <li>・工業をさかんにしようとした。(殖産興業)</li> <li>・強い軍隊をつくろうとした。(徴兵令)</li> </ul>
	1	<p>○改革に不満をもつ人々の行動について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・士族は、西南戦争などの反乱を起こしたが、すべて新政府軍にしずめられた。</li> <li>・武力による反乱から言論で主張する世の中へと変わっていった。</li> <li>・板垣退助は国会開設を要求し、自由民権運動が各地に広がっていった。</li> </ul>
	1	<p>○議会政治の基礎をつくった人々(板垣退助、大隈重信、伊藤博文)はどのような思いをもっていたのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・板垣退助や大隈重信は国会開設に向けて、政党をつくった。</li> <li>・国民の権利に重点を置いた憲法案が各地でつくられた。</li> <li>・天皇主権の大日本帝国憲法を伊藤博文がつくった。</li> </ul>
ま と め る	1	<p>○調べてきたことを整理して、維新の三傑を中心に人間関係図をつくり、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西郷隆盛と木戸孝允は薩長同盟を結ぶ。</li> <li>・坂本龍馬は大久保利通、西郷隆盛、木戸孝允に薩長同盟を働きかける。</li> <li>・大久保利通、木戸孝允、伊藤博文は遣欧使節で一緒に欧米の進んだ政治や文化を学んだ。</li> </ul> <p>㊦若い武士たちが、欧米諸国に追いつくために、新政府をつくり、諸改革を行って近代化を進めていった。</p>

## 7 市教研社会科研究主題解明のための方策

変貌する未来を切り拓く社会科学習  
～手応えの発見につながる『深い学び』の探求～

＜本年度主題解明のための視点＞

【研究内容1】「深い学び」に導く単元づくり

【研究内容2】社会的な見方・考え方をはたらかせる学習過程の工夫

本単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導に取り組んでいきたい。

【研究内容1】「深い学び」に導く単元づくり

### ○児童の問題意識を生み出す導入の工夫

本単元では、「深い学び」につながる主体的な学びを実現するために、問題解決的な学習の充実を図る。本単元の導入では、江戸時代末1860年頃と明治初め1880年頃の日本橋の絵図を比較する。等尺年表を用いることで、200年以上変わらなかった社会の様子が、わずか20年の間に劇的に変化したことに気付かせたい。児童が劇的な変化をより実感できるように、熙代勝覧の絵巻も資料として使う。19世紀初めの日本橋と江戸時代末1860年頃の日本橋を比較し、江戸時代の人々の生活が長く変わっていないことを確認することで、「20年間での変化がすごいことだ。」という実感をもって理解することができると思う。この驚きを児童の疑問につなげて、20年の間に誰がどのようなことをしたのという問題意識を高め、単元を貫く学習問題を設定したい。

また、一時間一時間の授業の導入も工夫していきたい。本時の導入では、ペリーが来航し開国したことで、最終的に幕府に対する不満が高まるという事実を捉えさせる。本学級の児童は、開国と聞いて「外国と交流する」「外国を招く」「なんか平和そう」など良いイメージを持っている。そこで先に児童の意識とは反対の結果を捉えさせることで、児童の驚きを引き出し、開国から人々が幕府に不満をもつようになるまでに、何があったのだろうかという問題意識を生み出すことができると思う。児童の予想と社会的事象の間にギャップを生じさせることで、問題意識を高めていきたい。

【研究内容2】社会的な見方・考え方をはたらかせる学習過程の工夫

### ○社会的事象のつながりを考える学習

本時はペリー来航により江戸幕府に対する不満が高まることを導入でつかむ。きっかけとなる社会的事象がペリー来航で、最終的な結果となる社会的事象が江戸幕府に対する不満の高まりである。ペリー来航が日本にどんな影響を与えるのか、時系列で学ぶのではなく、最終的な結果である江戸幕府に対する不満の高まりを導入でつかむことで、ペリー来航がなぜ江戸幕府に対する不満につながるのか、児童はその間にある社会的事象をつなげていくと考える。具体的には、ペリーが来航したことで日本は開国すること、開国によって貿易が始まったことで、物価が上昇し百姓達の不満につながったこと、大名は開国に反対していたが、幕府は意見を聞かず開国したことで不満が高まり、後の討幕運動につながることである。本時の学習を通し、

社会的事象のつながりを考え説明する力を養っていくとともに、歴史はつながっているという意識を高めたい。

○既習の社会的な見方・考え方を生かすことができる学習

本時は原因や結果を予想する際に、既習内容と関連させて考えることを大事にしていきたい。大塩平八郎の乱を学習する際に打ちこわしや百姓一揆の概念をしっかりと押さえることで、一揆や打ちこわしがなぜ起こるのか考えることができ、学習問題の幕府に対する不満とつなげることができる。一揆や打ちこわしは、物価の上昇が原因で生活が苦しくなることで起きたというこれまでに学習した社会的な見方・考え方を生かして、原因や結果を予想させていきたい。

## 8 本時の指導

### (1) 本時の目標

○ペリーが来航し開国したことで、江戸幕府に対する不満が高まった理由を、資料から読み取った事実と既習内容を関連させたり総合させたりして考える。(思考・判断・表現)

### (2) 本時の展開 (3/8)

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
5	1 ペリー来航の絵図やフィルモア大統領の手紙から、気付いたことを話し合う。 <米艦渡来旧諸藩士固之図> ・騒々しい雰囲気とする。 ・ペリーが来て驚いたんじゃないかな。 ・鎧を着ている人がいるし、大砲があるから、戦いに備えていると思う。 ・アメリカの船の方が大きいね。 <フィルモア大統領の手紙> ・ペリーは貿易を始めたい。 ・日本に立ち寄ることを認めてほしい。 ・開国してほしいんじゃないかな。	○来航した年を押さえることで、後の展開の資料読み取りの際に、ペリー来航との関連を意識しやすくする。 ○鎖国と関連付けて考えさせることで、ペリー来航が歴史において重要な分岐点であったことを捉えさせる。 ○フィルモア大統領の手紙からペリーの来航目的を読み取らせることで、開国の概念を押さえる。 ○開国したことに対する人々の思いを考えさせ、否定的な考えの根拠を押さえることで、学習問題に対する予想につなげる。	・米艦渡来旧諸藩士固之図          ・フィルモア大統領の手紙を簡単にした資料
10	2 一揆と打ちこわしの資料を読み取り、学習問題につなげる。 ・ペリー来航後、一揆や打ちこわしの発生件数が増えている。 ・3回大きく発生件数が増えた年がある。 ・発生件数は増えたり減ったりしている。	○「打ちこわしが起こるのはどんな気持ちだからかな。」と問うことで、既習内容を想起させ、不満につながる言葉を引き出す。	・一揆と打ちこわしの資料

2	3 学習問題をつくる。		
ペリーが来航したことで、なぜ幕府に対する不満が高まったのだろうか。			
3	4 学習問題に対する予想を考える。 ・鎖国で世の中が安定していたのに、それが崩れるのが嫌だから。 ・キリスト教信者の勢力が強まり、外国に乗っ取られそうだから。 ・打ちこわしということは、物価が上昇したから不満だったんじゃないかな。	○開国したことに対し、「当時の人々は否定的だった」と考えた児童の発言を再度確認する。 ○百姓だけでなく、違う身分の人の視点でも考えるよう伝える。	
20	5 幕府に対する不満が高まった理由を調べる。 ＜物価高の風刺画＞ ・食品名がたくさんかかっている。 ・凧揚げをしている絵だ。 ＜物価の上昇グラフ＞ ・物価が上昇している。 ・さっきのグラフと同じで、1866年に数値がすごく上昇している。 ・やっぱり、物価の上昇と打ちこわしは関係しているんだ。 ＜大名の意見グラフ＞ ・開国に反対している大名が7割もいる。 ・賛成は3割いないね。 ・大名は反対したのに、日本は開国したんだ。	○風刺画が何を表しているのか読み取るために、絵から読み取れることを一つ一つ丁寧に確認する。 ○前単元の大塩平八郎の学習時に、物価の意味をしっかりとっておく。 ○資料の読み取りの際には、少人数で話し合ってもよいことを伝える。 ◆一揆と打ちこわしの発生件数のグラフと物価上昇のグラフから読み取った事実を関連付けて、幕府に対する不満の理由を考えている。【思考・判断・表現】 ○必要ならば、大名の不満に着目させるために、導入で使った米艦渡来旧諸藩士固之図を使い、大名の気持ちを考えさせる。	・風刺画 ・物価上昇のグラフ ・大名の意見グラフ ・米艦渡来旧諸藩士固之図
5	6 本時の学習のまとめをする。 ＜キーワード＞ ・物価が上昇した ・大名は開国に反対した	○一人一人で本時のまとめを自分の言葉で書くことができるように、キーワードを全員で確認する。	
貿易が始まり物価が上昇したことで生活が苦しくなり不満が高まった。また、開国に反対していたにもかかわらず、意見を聞かず開国してしまった幕府に対して不満が高まった。			
		○この後の時代の流れをみんなで予想し、次時につなげる。	